

「求めよ、そうすれば」

マタイによる福音書 7:7-12

2025年8月10日
野村 友美 師

＜繰り返す私たちに＞

先週は8月6日に広島が、昨日9日に長崎が、それぞれ被爆から80年を迎えました。

そして今週15日には、終戦から80年を迎えようとしています。

終戦とは言うものの、この世界では今この時も、至るところで争いが続いています。ロシアとウクライナの戦争は、始まって3年以上が過ぎた現在でも、いまだに終りが見えてきません。

パレスチナとイスラエルの戦争は、アメリカが介入したり中東地域を巻き込んで、泥沼化しています。アフガニスタンを始め、多くの地域で紛争やテロが絶えず発生していて、幼い子どもを含めた人々の命が、日々暴力によって奪われています。そんな中で、世界で唯一の被爆国、核兵器のおぞましさを身をもって味わったはずのこの日本でさえ、核武装を声高に主張する人たちが現れてきています。

本当に人間というものは、自分たちの失敗をすぐに忘れて、飽きもせず懲りもしないで同じことを繰り返すものです。懲りずに何回も繰り返す。そんな私たち人間の性質をよく知っておられるからこそ、イエス様は今日の言葉を語られたのかもしれないかもしれません。

「求めなさい。そうすれば、与えられる。

探しなさい。そうすれば、見つかる。

門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」

失敗にも懲りないで繰り返すのだから、神様への祈りも何回だって繰り返しなさい。

何回でも諦めないで、求めて探して門をたたきなさい。神様は必ず、あなたたちに応えてくださるから。それは、しつこく祈りさえすればどんな願い事も叶えられる、ということを書いておられるのではないでしょう。

どんなに繰り返して祈っても、思い通りになるとは限らない現実を、私たちは多かれ少なかれ経験で知っているはずです。

「神様、今すぐコーヒーが飲みたいです」みたいな、欲望をぶつける祈りだけではなくて。自分や大切な誰かを助けてほしい、病気を癒やしてほしい、命の危機から救い出してほしいという切実な祈りでも、それが叶えられるとは限りません。祈りが足りないとか、信仰が足りないからだ、とかいう問題じゃないんです。私たちが踏み込めない神様の領分、神様の思いがあるのですから、どんなに祈り求めても叶わないことが、どうしてもあります。

それでも、「どうせ叶わないから」「祈らなくても神様が良くなるようになさるから」と諦めてしまわないで、あなたの願いを神様に訴え続けなさい。そうイエス様は勧めておられるんです。一体どうして、そんな無駄かもしれないと思えるようなことを、イエス様はこんなに勧めるのでしょうか？

<まして、天の父は>

誰でも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。求めたものがそのまま、与えられはしないかもしれません。

でも神様は必ず、何かの形であなたたちに応えてくださる、とイエス様は断言しておられます。

そしてそのことを、親と子どもの関係に例えて説明なさいました。

あなたたちの誰が、自分の子どもがパンを欲しがっているのに、石を与えるだろうか。

魚を食べたがっている子どもに、蛇を与える親がいるだろうか。そう言って、イエス様は私たち人間を子どもに、そして神様を、愛情をもって子どもを育てる親に例えておられます。パンと魚は、ガリラヤ湖のほとりで暮らす人々にとって、きつとなじみ深い「いつもの食事」の献立だったでしょう。

イエス様が5千人もの人たちに食べ物を配られた奇跡を、新約聖書の4つの福音書がそれぞれ紹介しています。その時にイエス様が増やされたのも、パンと魚でした。現代日本で生きる私たちで言えば、白ご飯とお味噌汁みたいなイメージかもしれません。

ご馳走が食べたい。贅沢をしたいと、この喩え話の子どもはわがままを言っているわけじゃないんです。生きるのに必要なごはんを食べたがっている子どもたちに、食べられない石や危険な蛇をあげるようなことはしないだろう？あなたたちが良くできた完璧な親じゃなくたって、自分の子どもには精いっぱいのことをしてあげようとするじゃないか。まして、あなたがたの天の父は、とイエス様はおっしゃいました。私たちに何が必要か、私たち

を健やかに生かすものは何かを知っておられる神様は、いちばん良いものを与えて、祈る私たちに応えてくださる。そのことを、イエス様はこの親と子どもの譬えで伝えておられるんです。それだけじゃありません。

子どもというものは、とくに幼い時には、何でも親に報告したがる場所があるものです。

「ねえねえ、見て!」「こっちに来て!」「聞いて、あのね」と子どもたちは毎日、何回も飽きずに繰り返します。「あれが食べたい」「これをしてほしい」「これは欲しくない」と、まだ言葉を話せない赤ちゃんでも、親にちゃんと伝わるように訴えますよね。私がまだ離乳食を食べ始める前の赤ちゃんだった時、母が食べていたソフトクリームをじっと見つめて、口をもぐもぐと動かしたんだそうです。面白いから試しにソフトクリームを口元に持っていったら、すごい勢いでかぶりついたのよ、と何回も母から聞かされました。とりあえず生まれた時から食いしん坊だったみたいですが、似たようなエピソードを皆さんも、ご自分のことだったり子育ての中でお持ちなのではないでしょうか。

子どもは自分が見ているものや、味わっていることや、してほしいことを、何とかして親に伝えようとします。すぐに応えてくれなくても、期待通りの答えが返ってこなくても、子どもは繰り返し親に話しかけて、自分の思いを訴えます。欲しいものや、してほしいことを伝えて、親の動きに期待します。そうやって、親からの反応を通して少しずつ、目の前のもの

のや自分自身のことを理解して、子どもはだんだんと成長していくのでしょうか。同じように、小さな子どもが何回でも親に話しかけて、親に期待して頼るように、あなたたちも神様に何回でも話しかけて、期待して、頼りなさい。そして神様とのやりとりの中で、目の前の出来事や自分自身のことを少しずつ理解して、成長していきなさい。そうイエス様は教えておられるんです。

<求めよ、そうすれば>

「だから」と最後にイエス様はもう一つ、勧めの言葉を添えておられます。だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。

このイエス様の言葉は、キリスト教の歴史の中で「黄金律」と呼ばれています。「黄金律」、つまり金のように多くの人にとって価値があるルール、ということです。イエス様が言われるよりも前から、旧約聖書の外典と呼ばれる文書の中に、そしてイエス様と同じ時代のユダヤ教のラビの教えにも、似たような言葉がありました。

「自分がされて嫌なことは、他の誰にもしてはいけない」という言葉です。

自分がされて嫌なことを、他の誰かにしないように気をつけるのは、目の前の相手を尊重するために、まず何よりも必要なことでしょう。

そこからさらに一歩踏み出して、イエス様は目の前の人々に向かって勧めました。人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。これは少し、危険な言葉にも聞こえます。だって自分がしてもらいたいことでも、相手に

としては違うかもしれませんから。

例えば、話しかけられるのが嬉しい人もいれば、むやみに近づかないでほしい、そっとしておいてほしいと思う人もおられるでしょう。

お好み焼きにマヨネーズをかけてほしい人もいれば、「やめて！」と思う人もいます。

好みの問題だけじゃなくて、生まれ育った文化の違いというものもありますよね。

エスカレーターに乗った時、皆さんは前にいる人に右側と左側のどちらに立ってほしいですか？私は神学校に入って、初めて関西から関東に移り住んだ時に、自然とエスカレーターの右側に立っていて、後ろの人に舌打ちされました。そんな風に、してもらいたいことは結構、人それぞれだと思います。

だから誰かに何かをする時には、相手の状況をよく見て、できる限りの配慮をする必要があるのは間違いないでしょう。

「自分がされて嫌なことは、他の誰にもしない」までにしておく方が、お互いに優しいような気もしてきます。ただ、「私とこの人は違うから」と壁をつくって、なるべく関わらないでいるなら、失敗はしにくいかもしれませんが、何も変わることはないでしょう。

誰かの悲しみや痛みが、目の前にある時。

誰かが苦しんだり、悩んだりしている時。

誰かの命や尊厳が、奪われようとしている時。

神様がお創りになって愛しておられるこの世界が、そしてそこにある誰かや何かが、壊されようとしている時。

私たちは失敗を怖がって、ただ見ているだけで終わらせるわけにはいきません。だからイエス様は勧めておられる、いや、訴えておられるんです。

「求めなさい、探しなさい、門をたたきなさい」と。あなたがしてほしいこと、そして目の前の誰かもきっとしてほしいことを、するために。

神様に祈り求めて、自分にできることを探して、門を叩いて飛び込みなさい。そうイエス様は弟子たちに、イエス様の言葉を聞く一人ひとりに訴えておられます。

悲しみや痛みが、癒やされること。

苦しみや悩みから、解放されること。

命と尊厳が、大切に守られること。

かけがえのない存在だと認められて、尊重されること。

あなたがしてほしいこと、誰もが願うこのことを、祈り求めて、実現する方法を探して、勇気を出して飛び込むようにと、イエス様が私たちの背中を押しておられるんです。知恵も力も愛も足りない私たちにとって、それはとても難しいことなのかもしれません。きっと何回も失敗するでしょうし、何回もがっかりしたり、がっかりされるでしょう。どんなに神様に祈っても、何も変わらなくて、諦めなくなる時もきっとあります。

それでもイエス様は言われるんです。

求めなさい。そうすれば、与えられる。

探しなさい。そうすれば、見つかる。

門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。

このイエス様の訴えと同じ響きを持つ言葉を、私は先週の水曜日のニュースで聞きました。

「諦めるな、押し続けろ、進み続けろ、光が見える

だろう、そこに向かって這って行け。

這い出せず、あるいは苦痛の中で命を奪われた数多くの原爆犠牲者の無念を晴らすためにも、我々も決して諦めず、粘り強く、核兵器廃絶という光に向けて這い進み、人類の、地球の生と安全を勝ち取ろうではありませんか。」

これは今年の平和記念式典で、広島県知事の湯崎英彦さんが語られたスピーチの、結びの言葉です。戦後80年が過ぎた今も、私たち人間は罪の暗闇から這い出せないでいます。飽きもせず、懲りもしないで、争い合い、奪い合い、傷つけ合っています。平和の光はますます遠ざかる一方なのかもしれません。それでも、私たちは知っています。私たちの天の父は、求める私たちに良いものをくださるに違いない、と。

だから諦めないで、しつこく粘り強く神様に祈り求めて、私たちは這い進んでいこうではありませんか。

すべての人が神様の愛によって癒やされ、解放され、大切にされる平和を目指して、何回でも求めて探して、門を叩いてまいりましょう。

この世界を「良し」とされた神様の思いが実現する神の国、神の義を求めて、応えてくださる神様に信頼して祈りながら、じわじわと進み続けましょう。お祈りいたします。